

豊葦原瑞穂の国

宮司 前原利雄

暑中お見舞い申し上げます

鬱陶しい梅雨も明け、連日暑い日が続いております。皆様には益々ご健勝にてお過ごしのことと拝察いたします。

▼さて、ここ東松山市を中心とする比企地域は、昔から肥沃な土地として農業が盛んに営まれ、特に都幾川水系をはじめ水源にも恵まれていることから田んぼが多く、箭弓さまの稲荷大神が、その水田地帯を高台から温かく見守るかのように鎮座されておりますのも極自然のものであったと思われまます。

▼この拙稿を書いている六月初旬は、田んぼに水が張られ、田植えが最盛期を迎えております。

先日、農家の方に貴重なお話を伺う機会がありました。その方のお話によると、近年では、農耕機械も日進月歩で高性能なものに改良され、また最新のドローンを使つての種蒔や肥料散布など、農業技術も向上しております、農業従事者の高齢化対策や人手不足、農作業の負担の軽減にかなりの効果を上げています。今では田んぼ一面緑の

絨毯を敷き詰めたような、青々と瑞々しい稲が元氣よく育つてくれていることでしょう。

▼昔から、我が国は「豊葦原瑞穂の国」と名付けて米作りを大切に行ってきました。神社恒例の春祭「祈年祭」の祝詞の中で、「手肱に水泡搔垂り向股に泥搔寄せて取作らむ奥つ御年を始め草の片葉に至るまで作りと作る物等を悪しき風荒き水に遭わせ給はず豊かに向榮に成幸へ給ひ」と、田植えの所作を予祝して、その年の豊穰を神様に祈つております。近年、こうした田植えの原風景があまり見られなくなつたことは寂しい限りであります。何れ、イナリ(稲成り)の神様をお祀りする当社においても、篤農家の方にご協力頂き、神饌田にて『御田植祭』の齋行が叶えられればと願っております。

▼このところの新型コロナウイルスによるパンデミックやウクライナへのロシアの一方的な侵攻、世界的な気象変動などのほか、急激な円安も加わり、小麦をはじめ穀物や輸入製品、様々

な物価高騰に見舞われています。

そうした中、我が国では小麦粉と同様の利用が出来る、米を原料とする米粉への転換が見直されてきているようです。米のみならず、農作物の食糧自給率向上の面からも、今後の我が国の農業にとって大きな転換点になるのではないのでしょうか。遠く神代の時代から、悠久の美しい文化・伝統を受け継いできた我が国が、これからも「豊葦原瑞穂の国」であり続けるように日々祈り続けて参ります。



暑中見舞い
申し上げます

宮司 前原利雄

責任役員総代 嶋本正雄

同 江野邦夫

同 野口茂

総代顧問 一同

職員 一同